

導電性ポリマー拡充

繊維に続き空調向け開発

理学（長野県松本市 金井文彦社長）は、導電性ポリマー（PEDOT-IPSS）「RicP」の用途展開を強化する。このほど販売を開始した導電性繊維「ファンタロン」に次いで、大学と連携してエレクトロニクス関連材料やPEDOT-IPSSが持つ湿気の吸排出特性を生かした空調設備用の材料を開発、供給することを計画している。2022年度までに、これらの高機能材料で構成される新規事業の売り上げ比率を総売上高の5割に引き上げる方針。将来的にこれら製品の需要が本格化した際には、新工場の建設も視野に入れる。

理学は理化学分析機器や物理物性計測・試験機器などの販売を主力とする商社で、同分野の売上高比率が全体の7割近くを占めている。ただ将来的にこれら装置の販売増

が見込みにくい状況にあることから、近年は新規事業の育成を強化している。14年には高い電気電導性を持つ高濃度、低コストを特徴とする導電性ポリマー「RicP」を

開発し販売している。このほど販売を開始したファンタロンは、RicPの開発製造技術を応用して開発した導電性繊維。表面抵抗値を10の2乗〜10の7乗まで調整

でき、静電気の帯電防止やほこりの付着および放電防止など、広範な用途での利用が見込まれている。繊維加工メーカーなどを対象にアプローチを進めており一部で採用が

決定。評価中の複数案件の採用も見込んでいる。同社はこれら製品の拡販に加え、今後RicPをベースとする新製品の開発を推進していく考え。新たな開発テーマの